

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1944
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.38, No.2 (1944. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19440200--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾大學經濟學部機關誌

第三十八卷 二月 第二號

戰爭文獻二三 酒井篤次・大野信三教授の著作

六四 (六四)

などの外に、あまりさういふ問題に接してゐないものにとつては、現代用兵の大観を知る上において極めて便利なものである。

兩書とも、口語文をもつて記されてあることは、われわれをして、それに近づき易からしめる。著者の軍人としての知識と経験とは、この二つの二百數十頁の小冊の中に遺憾なく現はしてゐるし、戦争に對する見解のごときも極めて妥當である。たとへばクラウゼウッツとルーデンドルフの對比のごときに對する判断は、われわれの敬服するところである。

戦争問題がいろいろな見地から觀察せられ、ゐるのが現状である。經濟學者は經濟の見地から政治學者は政治の見地から、思想家は思想の見地から戦争を觀察して、經濟戰とか外交戰とか思想戰とかいつてゐるが、これらの論者は、一度戦争そのものを研究してみる必要はないであらうか。

酒井中將の著作はさういふ人達にとつては、極めて良好な入門書であり、手引草である。そして、總力戰における武力戰の地位、思想戰、經濟戰の意味をおのおの解明してをられる。さういふ意味で、これらの小冊子を出発點として研究することが重要である。好著として推すべきものである。

經濟活動動機思想史概観……………高橋誠一郎(一一)

經濟表の生成發展……………渡邊建(四七)

藤本實也著「富岡製絲所史」……………高村象平(九〇)

増井幸雄教授追悼……………永田清(九七)